

3 オムニバス「森の憧憬」
(kondalilla(Stephan Leek))
(little tree(Eric Whitacre))

曲について

Kondalilla(Stephan Leek)

Kondalilla is the name of a waterfall in a small remaining pocket of rainforest in South East Queensland, Australia. In the indigenous Dreamtime Stories of the area, Kondalilla is the spirit of the waterfall and Ouyen is the spirit of the still water. This work is most effectively performed if the Sopranos are distributed throughout the audience. Durations are at the discretion of the conductor, but generally they should be very long and broad. An average performance time of this work would be between 6 and 7 minutes.

とのことである。参考にしてほしい。曲をきいたほうが早いと思われる。色々な擬音や声で景色をひたすらに表現している。特殊な曲だがここまで自然にとけこんだ曲はないであろう。一度本番を聞く機会に恵まれたが本当に不思議な気分になり感動した。聞き手、歌い手共に異空間を構成する喜びを知ってほしいと思う。

Little tree(Eric Whitacre)

little tree

little silent Christmas tree

you are so little

you are more like a flower

who found you in the green forest

and were you very sorry to come away?

see i will comfort you

because you smell so sweetly

i will kiss your cool bark

and hug you safe and right

*just as your mother would,
only don't be afraid*

*look the spangles
that sleep all the year in a dark box
dreaming of being taken out and allowed to shine,
the balls the chains red and gold the fluffy threads,*

*put up your little arms
and i'll give them all to you to hold
every finger shall have its ring
and there won't be a single place dark or unhappy*

*then when you're quite dressed
you'll stand in the window for everyone to see
and how they'll stare!
oh but you'll be very proud*

*and my little sister and I will take hands
and looking up at our beautiful tree
we'll dance and sing
"Noel Noel"*

この曲はクリスマスの whitacre が有名な指揮者に委嘱されて作曲した曲とのことである。旋律線の自然な、美しい曲というイメージがあるが、意外にも日本ではあまり演奏されることのない whitacre 曲のうちの一つである。Whitacre にとっても、のちの妻になる人物と深く関わるきっかけとなった曲だという。

このオムニバスについて

この二曲を選んだのはこの二曲に会場を支配する力が十分にあると考えたからである。かなり迫力のある曲が二曲決まっている今、視点、耳の位置を変えた新たな感覚でお客さんに聞いていただくことによって飽きのない演奏会が実現できるのではないかと考えている。今まで日本の合唱団があまりやってこなかった、体感する合唱曲、とりわけステージと別々ではなく、自分もその演奏空

間に参画しているという実感を持ってもらうのが本ステージ案の選曲意図である。本当にどうでもいいが、本オムニバスの名前、「森の憧憬」は「森への憧憬」ではないかという貴重なご意見をいただいたのだが、憧憬という言葉には自動詞も他動詞も存在するため、「風の憧憬」という既存の2次元作品にあやかりこの命名で確定するに至った。

譜面について

Kondalilla

この曲は譜面を見ていただければわかると思われるように長さの割に、譜面がとても簡素でありかつとても短い。これは何を意味するかと言えば、簡単なだけでなく、歌い手に表現、空間構成部分についてかなり任せていることを意味する。これはみんなでどのような演出にするか考えていきたい。個々にキャラを持たせるとすると、ある種の演劇感があるという点でも模索の可能性が大きい作品の一つである。

その反面、懸念点も数点あげられる。

まずその一つに大人数でこの曲をやる難しさである。この曲をやる団体は色々な動画を見るに大抵40人前後であることが多い。この団の人数は100人前後である。新宿文化の箱にたいして空間構成をこころみるのならばこのくらいの人数でやるのがちょうどいいのではないかと思ったが、パート配分が難しい。たとえば最初の小節について言えば、女声はおそらく3つにまとめて分けることになり、耳につく（というかあまりいるとうるさい）上2パートは7人ずつ程度の半 soli 状態で担当することになる。男声についてはそこまで問題は生じないと思われるが、客席のなかで団員一人一人が独立してこの曲を歌い上げるためには技術以前にある一定の自信が必要になるのではないと思われる。

Little tree

ピアノが伴奏ではなく影響、刺激を受け合うものであることに注意したい。ボカリーズ、擬音、考察要素はたくさんあるように思われる。若干構成的にも映画、TV音楽感があり、自然とお客さんに浸透してくるように、なるべくしれっと色々なしかけをしていければと思う。

